

第1学年 国語

【場面や描写を比較しながら主人公の心情変化に気づき、物語の山場を捉えようとする姿】をイメージした授業

二本松一中 齋藤 真由美

1 本单元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動 (夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す	・作品を通読し、登場人物の関係を整理しながら、今後の学習の見通しをもっている。	・時や場所、人物などを抑えながら、場面分けをしている。 (思・判・表)
2 3	考える 習得する	・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表にまとめている。 ・比喩表現を探して、どんな情景や気持ちを表しているか考えている。	・「私」の気持ちが読み取れる表現に着目しながらまとめようとしている。 (思・判・表) ・場面ごとの状況や、場面と人物をなどの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 (思・判・表)
4 本 時	考える 対話する	・同じ物や場所について、それぞれの場面や描写を比べて読み、どんなことが読み取れるか話し合うことで、変化のきっかけとなった「山場」を確認している。 ・冒頭と結末の「銀木犀」に関する描写の違いを読み取っている。	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈している。 (思・判・表)
5	考える 習得する	・結末の一文が意味するものを考え、物語の続きを考えている。	・読み取ったことを生かして、作品の続きを考えようとしている。 (態)
6	振り返る	・完成した物語を紹介しながら交流し、学習を振り返っている。	・交流を通し、新たな読みにつなげている。 (思・判・表)

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

○ 生徒の気づきを生かして課題解決に迫り情景描写から主人公の心情変化を読み取る。

○ 課題を自分事として捉えることができるよう、前時で行った、同じ言葉を比較する方法で課題を解決することを確認し、これまでに読んだ場面と「同じ」物、場所、言葉などに着目・比較させることで「私」の心情変化を考える。

T：最終場面に出ている語句で、以前の場面でも出ていたものはあるかな。

C：銀木犀、ビニール袋、星の花があります。
T：最終場面でもくり返し出ている語句はあるかな。

C：あ、「大丈夫」というセリフが初めと終わりにあります。

T：「ここにいれば『大丈夫』と『大丈夫』やっつけていける」では明らかに感じ方が違う気がするね。

C：はい、最初の方は守られているから安心している感じで、後の方は成長した感じですよ。

T：「成長」ってどんな風にか？

C：夏実と仲直りできなくてもいいとか。

C：新しい友だち作ればいいってことだよ。

T：あんなに夏実にこだわっていたのにね。じゃあ「夏実にこだわらなくなった」と言える根拠はどこかな。

C：やっぱり「星の花」をビニール袋から落としたという場面しかないと思う。

T：どうして？

C：前はビニール袋の「星の花」はお守りで大事にしていたから、それを捨てたということはもう必要ないと判断した結果だと思います。

T：ではここが山場の主人公の気持ちが変わった瞬間と言えるのかな。

C：でも捨てたってことは、もう決心がついてたってことだからもっと前に気持ちに変化があったのかもしれないよ。

C：なるほど、確かにここはもう迷いがなくなってる気がする。

T：では他にみんなが気づいた「銀木犀」にも目を向けて、気持ちが変わった瞬間を決定づける部分を探してみよう。

C：場面の最初は「銀木犀」の下に隠れていたのに最後は「銀木犀」から一步踏み出して行きます。

C：やっぱり気持ちが変わっていると言えるよ。途中で「銀木犀」は・・・

T：アニメや漫画で人物の気持ちが暗い感じから明るい感じに変わる時のイメージを考えてみてはどうかな。

C：あ、「陽の光」か。この「葉っぱ」も「銀木犀」だ。

C：確かに「私」が見上げている瞬間だ。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

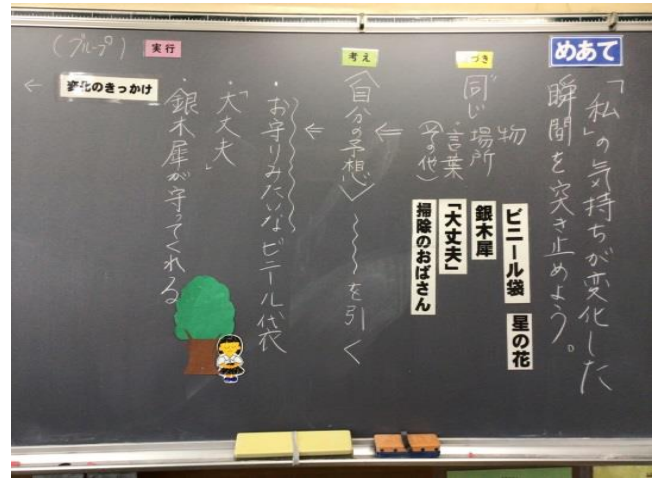
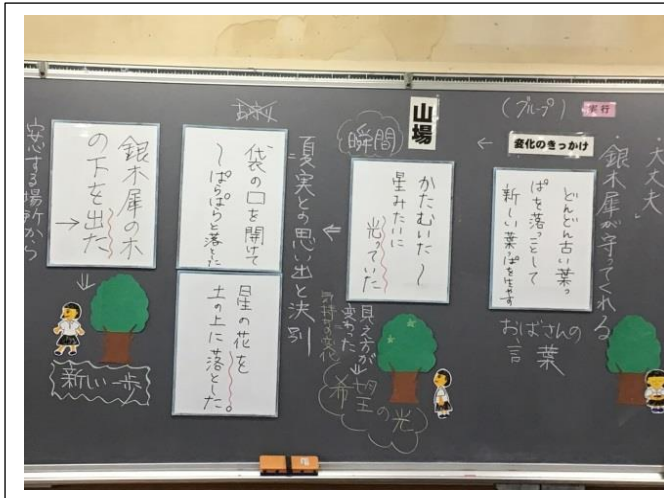
- ①自分の読みは適切であったか
- ②足りなかった考えは何か
- ③今後どの学習に活用できそうか

<生徒の振り返りから>

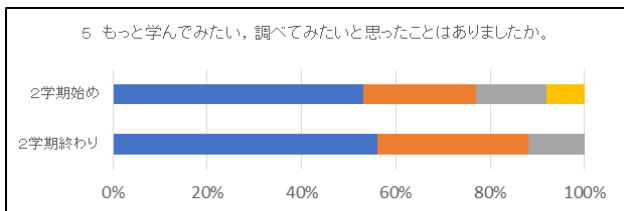
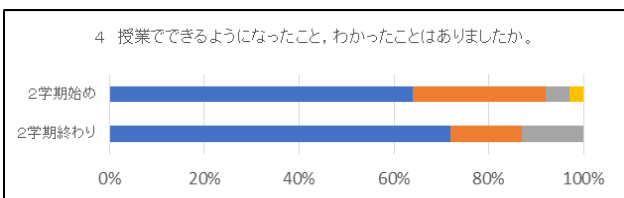
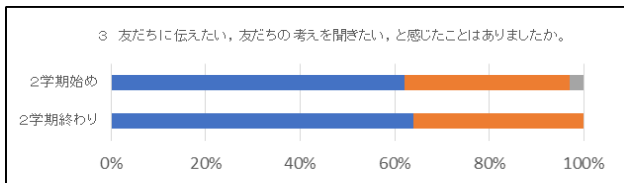
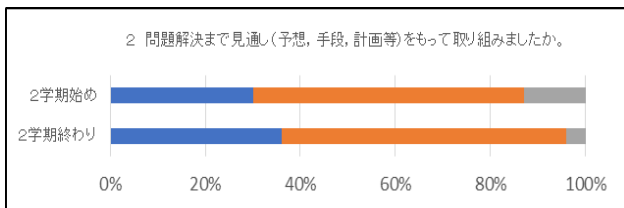
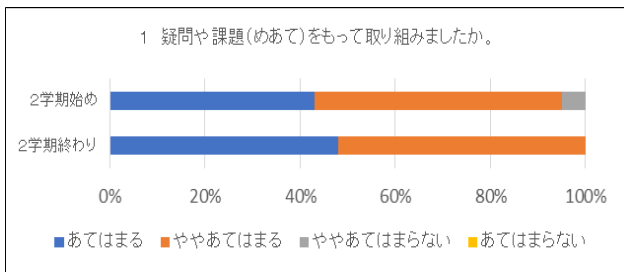
・最初は夏実にしがみついている感じで「銀木犀」から離れられなかった「私」が最後は「銀木犀」から離れて立ち上がった「私」の姿が頼もしいと感じた。ただその間に「銀木犀」の見方が変わっている瞬間があったことに気づけなかった。何回も出てきた「銀木犀」が一番大事な「私」の心の成長の瞬間にも描かれていたから作品の題名にも使われていたのかなと思った。

・「気持ち」を表す言葉以外にも心情を知るヒントがあることがわかったので、これからの学習で活用したい。また、文章中に何度も出てくる言葉も気持ちの違いが隠れていて改めて読むと納得した。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



3 アンケートの結果から



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点 I】

○ 前時までの課題解決方法を生かして取り組んだことで、見通しをもって学習活動に取り組む生徒が多かった。

● 比較できる語句に複数気づいた生徒が多く、考えるための視点が広がってしまった。本時の授業では、情景描写に着目して「気持ちに変化した瞬間」を捉えさせるため、作品の題名や冒頭部分にもふれることで、物語の象徴となる「銀木屋」に的を絞り、心情変化を考える時間を確保する必要があった。

【視点 II】

○ 個→小グループ→全体と、様々な方法で自分の考えと他の考えを比較させたことで、自分の読みの有効性や不足していた部分に気づき、個の実態を把握することができた。

● 単元を通して習得した様々な読解の手がかりを、今後の学習に活用するために、毎時間の振り返りを蓄積して必要な場面で確認できるよう、振り返りシートを工夫していきたい。

【その他】

・ 班活動では、グループの考えを事前にタブレット端末に書き込ませることで、全体での意見交換の時間を十分に確保していきたい。

実際の指導案はこちらへ